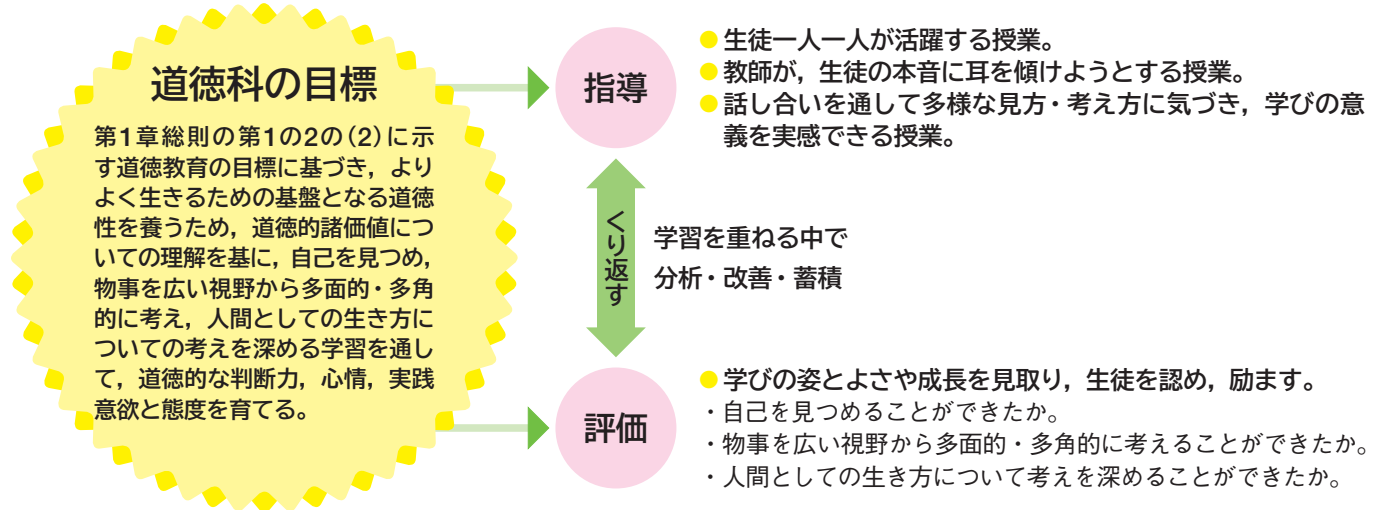


# 道徳科における評価

～教科書・教師用指導書を活用して～

## 1 目標・指導・評価の密接な関連

道徳科の目標を実現するには、目標と指導・評価が密接な関連をもって実施されることが重要です。指導方法の工夫なくして評価は語れません。

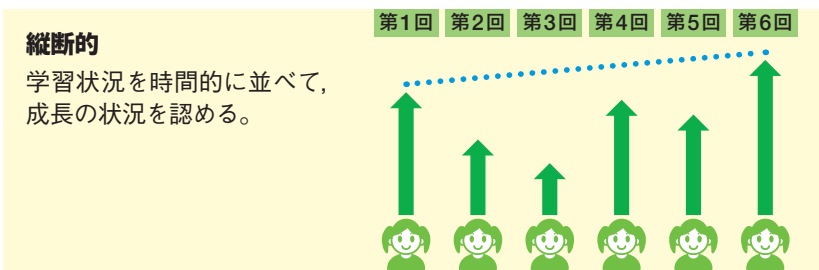


## 2 道徳科の評価のポイント ～生徒の成長につながる評価～

- 数値による評価ではなく、**記述式で行う評価**。
- 個々の内容項目ごとではなく、**大きくくりなまとまりを踏まえた評価**。
- 相対評価ではなく、生徒の成長に着目し、**よい点や可能性、成長の状況を積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価**。(特に顕著とみられる具体的な学習状況を記述する。「よさや成長」に限定し、課題は記述しない。)

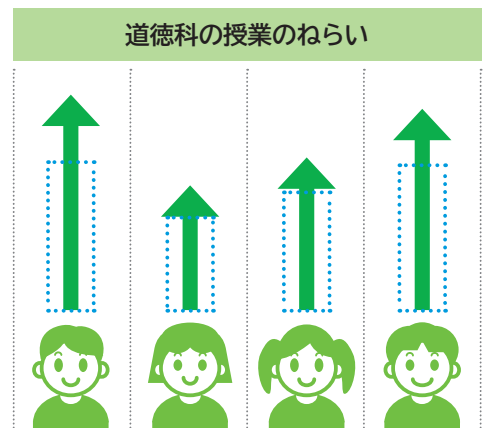
### Q 「大きくくりなまとまりを踏まえた評価」とは？

時間的な大きくくりと、学習や内容項目全体の大きくくりの、二つの意味があります。一定の期間を経て「縦断的」「横断的」に見取っていくことが大切です。



### Q 「よい点や可能性、成長の状況を積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価」とは？

生徒がどのような学習を行っているのか、その学びの過程における「よさや成長」を評価します。



# 授業ごとの見取り

## 教師用指導書 ワークシート編を使って

教材中の登場人物を通して考えたことや生活を振り返って考えたこと、他者の考えにふれて感じたことなどを記述します。生徒の道徳的な見方・考え方を把握する手がかりとなります。

学習を振り返り、自己評価します。記号の選択だけでなく、その根拠を以前の授業と比較するなどして記述するように促します。学習を通しての変容や成長を見取ることができます。

教師がコメントを返すことで、学習意欲の向上につながります。

第 〇 回 道徳 月 日

Aの視点 Bの視点 Cの視点 Dの視点

1年 組 氏名

### 13 裏庭でのできごと

教材書 76～81ページ (学びの道しるべ2・3より)

〇健二は職員室に向かう時、首を横に振りながら、どんなことを考えていたのだろう。

自分のまがいを書けることで、どんなことが得られるだろう。

(友達への考え)

〇今日の学習を振り返って、あてはまるものに○をつけ、感じたことや考えたことを書こう。

自分に引きつけてしっかりと考えられたか。	A	B	C	D
友達の考えや話し合いから、新しい気づきや発見があったか。	A	B	C	D
自分の生き方について考えを深めることができたか。	A	B	C	D

A = とてもそうだ B = そうだ C = あまりそうではない D = まったくそうではない

ワークシート編には、全教材分のデジタルデータも収録しています (PDF/Word / 一太郎)。  
発問を変えるなど、アレンジして使うことも可能です。

継続して蓄積することで、学習に取り組む姿勢や、記述の内容や量の変化に気づくことができます。

# 大きくりなまとまりでの見取り

## 教科書を使って

### 道徳の学びを振り返ろう

期末 1年 組 番

1 今学期 (今期) の道徳授業で「ためになった」「勉強になった」「心に残った」などと思う教材を三つ選び、記入しよう。

教材名

2 1で選んだ教材の中でいちばん考えさせられた教材を選び、その理由と、授業後に授業で学んだことに関係する経験などがあたら書きましょう。

教材名

選んだ理由・学んだことに関係する経験

3 今学期 (今期) の道徳授業を通じて、自分が成長したと思うことを書きましょう。

感想

その理由

4 道徳授業を受けての感想を教えてください。また、その理由も書きましょう。

□満足 □あまり満足 □あまり満足していない □満足していない

教科書巻末には、学期ごとや1年間の学習を振り返るページをつけました。生徒の中・長期的な学びの姿を見取ることができます。

提出用に切り離して使うことも可能です。

「自分なりに考えを深めた内容を書くようになったこと」や、「既習の内容や体験と関連づけて考えている場面」に着目するなど、評価の視点をもつことが大切です。

「測る」評価ではなく、「育てる」評価です。成長の尺度は個々の生徒の中に存在しています。教師の見取りと違う場合もあります。自己評価は、「そうありがたい」という生徒の願いや思いでもあります。生徒の学びを支援する評価をしましょう。

## 通知表・指導要録の作成へ

## 教師用指導書 解説・展開編を使って

展開例

生徒の学習活動と主な発問・予想される生徒の反応

指導上の留意点

1 失敗したときの行動について、経験を出し合う。  
〇失敗したのに正面に謝れなかったのは、どんな時だろう。  
・家で弟のジョーズをまちがって飲んでしまった時。  
・学校で、宿題や提出物の忘れ物をした時。  
〇人の意見に流されてしまったことはあるだろうか。 [A]

2 「裏庭でのできごと」を読み、誠実に行動することの意義について話し合う。  
〇サッカー部の練習が終わったあと、健二の気が重かったのは、なぜだろう。 [学びの道しるべ1]  
・先生に正面に言わずにすきりしたがる、そうすると今度は大輔との関係が悪くなると思ったから。  
・先生に本当のことを言いたいが、言ったら大輔がうそをついたことを先生に知られることになるから。  
〇健二は職員室に向かう時、首を横に振りながら、どんなことを考えていたのだろう。 [学びの道しるべ2]  
・もうこれ以上、悪い気持ちのままではいけない。  
・罰つたのは僕なんだから、きちんと謝ろう。  
・大輔も、あとで話せばさっさとわかってくれる。  
〇自分のまがいを書けることで、どんなことが得られるだろう。 [学びの道しるべ3]  
・すっきりした気持ち。  
・本当の友情。  
・やるべきことに集中できる心。  
・先生や周囲からの信頼。

3 自分で判断し行動するとき大学だと思えるのは何か、考えをまとめる。  
〇失敗したり、周りに流されそうになったらして、正面に行動ができなくなるときには、どんなことを第一に考えればよいだろうか。  
・堂々と、明るい気持ちでいられること。  
・みんなで正しい行動をとれるように話し合うこと。  
・自分の行動の責任は、自分だとすること。

板書例・板書のポイント

「裏庭でのできごと」p.80

失敗でつなぐことで、健二が本当のことを書こうとした理由をもとに考えることができるようにする。

「悪い理由」と「悪い理由」を分けて書くことで、健二の葛藤を共感的に捉えやすくなる。

評価の視点

多面的・多角的に考える  
誠実に行動し自らの行為の結果に責任をもつことの大切さについて、3人の登場人物の心情を理解しながら考えを深めている。  
自分のこととして考える  
誠実に生きるために大事にすべきことについて、主人公の葛藤を共感的に捉え、自らの経験と重ねて考えを深めている。

生徒のよさを伝える言葉の例

誠実に行動することの大切さと難しさについて、自分の体験と重ねながら記述していました。  
自分の行動に責任をもつために必要なことについて、自分の意見と理由を伝えながら、他の人の意見をメモしていました。  
誠実さを大切にしてこれから自分はどう行動

1 単位時間における評価の視点例。

指導方法の評価の例。

見取りたい生徒のよさの例。  
評価文を作成する際の参考にもなります。

本時の主な見取りのポイント。  
どの場面で、何を手がかりに生徒の学習状況を把握するかを例示しています。

### 3 生徒の学びを見取る手がかり

学びを見取る手がかりとして、学習指導要領解説では**二つの視点**を提示しています。

- 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか。
- 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか。

### 4 組織的・計画的な評価 ～生徒や保護者に届ける～

授業を交流したり、意見や所感を交換したりして、組織的・計画的に評価に関わる力量を高めましょう。生徒や保護者に向けて、道徳科の評価の考え方や評価結果をていねいに説明していくことも大切です。

組織的・計画的な評価を推進するために

- 評価のために集める資料や評価方法を明確にする。
- 評価結果について教師間で検討し、評価の視点などの理解を図り、共通実践する。
- 評価に関する実践事例を蓄積し共有する。

生徒・保護者と評価を共有するために

- 道徳科の評価の考え方を、「通信」や保護者会などで発信する。
- 三者面談などの際に、道徳授業でのよさや成長とともに確認する。
- 保護者参加型の授業を実施し、授業の主題についてともに考え、語り合う。

### 5 発言や記述が苦手な生徒に対する配慮

発言や記述ではない形で表出する生徒の姿に着目したり、机間指導の際に意図的に問いかけ生徒の考えを聞き取ったりします。それぞれの「困難さの状態」を把握したうえで配慮することが大切です。

発言や記述ではない形で表出する生徒の姿に着目する

- ・ 教師や他の生徒の発言に聞き入ったりうなずいたりする姿
  - ・ 自分の思いをつぶやく姿
  - ・ 役割演技や動作化等の表現活動を行っている姿
  - ・ 隣の席の生徒やグループで話している姿
- など

想定される「困難さの状態」に応じて配慮する

- 発達障害等のある生徒に対しては、一人一人の困難さをしっかりと把握したうえで、他者の心情を理解するために役割を交代して動作化や劇化をしたり、見通しをもちやすくするために学習ルールを明文化したりするなどの指導上の工夫をする必要がある。
- 海外から帰国した生徒及び外国籍や外国にルーツのある生徒の多くは、我が国とは異なる言語や生活習慣、行動様式を身につけている。また、日本語の理解が不十分なために、他の生徒と意見を伝え合うことが難しいことも考えられる。発言や記述以外の形で見られる姿に着目し、評価を行う必要がある。

### 6 評価のための資料

● ノート、ワークシート、感想文等のファイル

生徒の学習の過程や成果等の記録を取りためておいたものを見直すことで、一定期間での成長や変容を見取ることができます。

● エピソード 生徒の発言や活動の様子などのエピソードを記録・蓄積します。

● 観察 発言や記述が苦手な生徒の様子を観察したり、意図的に指名したりして、記録・蓄積します。

● 面接 生徒と直接会話をし、表情や態度、発言内容などを記録します。

● 座席表シートの活用 ねらいに関わって特に観察したい生徒の姿を見取り記録します。